

## VII 研究発表業績

## 1 学会等研究発表

年月日	学会等の名称 (開催地)	演 題	発表者
平成 24 年 7 月 8 日～13 日	2012 年先進陸水海洋 学会 (大津市)	霞ヶ浦における光合成産物由来の難分解性 DOC の生産 $^{13}\text{C}$ トレーサーを用いた培養実験 の結果から	花町 技師
9 月 15 日～17 日	日本陸水学会第 77 大 会 (名古屋市)	霞ヶ浦底泥における脱窒活性と脱窒速度の 季節変化について	北村 主任
〃	〃	北浦底泥中に含まれるリン酸態リンの季節 変化	神谷 技師
9 月 19 日～21 日	日本分析化学会第 61 年会 (金沢市)	茨城県神栖市の地下水から見出された有機 ヒ素化合物の液体クロマトグラフィー／質 量分析計による分析条件の検討	菅谷 主研
11 月 1 日	平成 24 年度全国環境研 協議会関東甲信静支部 水質専門部会	霞ヶ浦底泥における脱窒について	北村 主任
11 月 21 日～22 日	第 39 回環境保全・公害 防止研究発表会 (熊本 市)	茨城県における PM2.5 成分分析結果と発生 源解析	鴨志田 技師
平成 25 年 3 月 2 日	大学生・高校生・研究 者による霞ヶ浦流域 研究 2013	霞ヶ浦底泥の脱窒による窒素負荷削減の寄 与について	北村 主任
〃	〃	土地利用の異なる流域からの負荷流出特性 の違いについて	神谷 技師
3 月 11 日～13 日	第 47 回日本水環境学 会年会 (大阪府)	霞ヶ浦底泥の脱窒による 窒素負荷削減の寄与について	北村 主任
〃	〃	土地利用の異なる流域からの負荷流出特性 の違いについて	神谷 技師
〃	〃	植物プランクトン由来易分解性 DOC の生 成・分解過程と湖水中有機炭素への寄与	花町 技師

## 2 誌上発表

題 名	執 筆 者	掲 載 誌
LC-MS を用いるフェニルヒ素化合物の分析 条件の検討と茨城県神栖市の地下水試料へ の適用	菅谷和寿 他	BUNSEKI KAGAKU. 62, No.5, pp. 431-436 (2013)
Numerical modeling on transition of dominant algae in Lake Kitaura, Japan	Md. Nazrul Islam (東京大), 小松 他	Ecological Modelling, 242, pp.146-163(2012)